

《品川シーズンテラスが完成》

全国で初めて下水道事業において立体都市計画制度を活用し、芝浦水再生センターの上部空間を利用して整備された業務・商業ビル「品川シーズンテラス」が完成しました。

地下には約7万6千m³の雨天時貯留施設が設置され東京湾の水質改善に寄与するほか、下水再生水や下水熱を利用した空調設備など、国内最高水準の環境性能を持った大型複合ビルとなっています。

また、新たに整備されたオープンスペースは既存の公園と一体で利用できるほか、ヒートアイランド現象を緩和する風の道としても活用されます。



芝浦水再生センターの上部を利用した
環境配慮型ビル「品川シーズンテラス」



新たに整備されたオープンスペース
芝浦中央公園と一体で利用できます。



下水熱を利用した空調設備
建物全体の冷暖房を賅います。



「品川シーズンテラス」の地下に設けられた雨天時貯留施設
降雨初期の特に汚れた下水を貯留することで、東京湾の水質改善に寄与します。

《東京下水道の国際展開》

マレーシアにおいて、下水道局と東京都下水道サービス（株）が技術的支援を行ってきた、我が国で初めての官民連携による下水道システム全般にわたる海外プロジェクトが本格始動します。東京の技術力を活かし現地の水環境の改善に寄与するとともに、日系企業の参入機会を創出し、日本の産業力の強化に貢献していきます。

また、本プロジェクトは、国土交通省など国の支援も受けながら進めてきた事業であり、政府が目指すインフラシステム輸出戦略の下水道分野におけるリーディングケースとして、他の自治体や民間企業の国際展開に弾みをつけるものでもあります。



マレーシア国の行政等技術者による
工事現場の視察



マレーシア国下水道関係職員による
東京都下水道施設の視察研修の様子

《神田下水130周年

水再生センター名称変更10周年》

JR神田駅の周辺に神田下水が建設されて130周年を迎えました。下水道局では130周年を記念したキャッチコピーの作成、神田下水のパネル展や見学会を行い、下水道の役割や歴史についてPRを行いました。

また、「水再生センター」への名称変更10周年のイベントも行いました。落合水再生センターでは10年前に埋めたタイムカプセルの開封式を行ったほか、10年後の自分へ手紙を書く「未来ポスト」を17の水再生センターで開催しました。



神田下水が建設130周年
現在も下水道管として使用されています。



10年後の自分に手紙を送る
水再生センターの「未来ポスト」